

日本農業新聞

有機農業拡大促す

東京で
シンボ 流通の連携必要有機農産物などの卸で
あるエフティビーエス
と、安全・環境・品質に
配慮した農産物認証など
に取り組む日本SEQ推
進機構は22日、東京都内
でシンポジウムを開い
た。有機・環境保全型農
業を進めることが日本農
業の活性化につながると
し、生産だけではなく流
通、販売まで連携したシステムづくりが必要とさ
れた。国井正幸農水副大臣
が、環境問題への国民の
関心が高まる中、農業政
策を環境保全重視の方向
で進めている状況を報
告。ツルネン マルティ
有機農業推進議員連盟事
務局長が「有機農業は国
の力、国の宝」と強調した
上で、昨年成立した有機農業推進法の背景と今月
末の基本方針発表までの
活動などを報告した。
農産物流通をテーマに
した討論会では、イオンの寺嶋普農産部長が「有
機農産物の市場は拡大し
ている」と指摘、「小売業
として支援するため、生
産体系に応じた売り場の拡大、消費者へのアピー
ルを工夫したい」などと
述べた。また市場拡大に
伴い「有機農産物のブラ
ンド力を高め、守る仕組みも求められる」とした。
シンポジウムには生産
者、流通業者、JA、行
政関係者ら約400人が
参加した。